

第26回



日本手術看護学会九州地区

日時 平成19年9月15日(土)

場所 iiichiko 総合文化センター

日本手術看護学会九州地区



第26回

日本手術看護学会九州地区

日時 平成19年 9月15日

場所 iichiko 総合文化センター

日本手術看護学会九州地区

第27回 日本手術看護学会九州地区ご案内

第27回日本手術看護学会九州地区を下記の通り開催致します。多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

日 時 平成20年9月20日(土)

会 場 福岡国際会議場

〒812-0032 博多区石城町2-1 TEL：092-262-4411

[演題申し込みについて]

- 応募資格 発表者・共同研究者とも日本手術看護学会平成20年度の会員であること。
- 演題内容 周手術期に関する内容
- 発表時間 7分以内(パワーポイント使用とします。その他の機器を希望する場合はご相談下さい。)
- 申込方法 演題申込用紙と原稿(下記要項に沿って記載)を期日までにお送り下さい。
- 原稿締切 平成20年5月31日
- 必須記述項目と文字数制限について

以下の各項目は必ず記入してください。集録集においては1演題は原則として4頁以内での印刷とします。また文字数に制限がある項目がありますのでご注意ください。

演 題 名：サブタイトルを含めて60文字以内。

所属機関名：病院名と所属部署の間は1文字空けてください。複数記入のときは、同じ病院の場合は部署の前に、同と記入して下さい。

演 者 名：発表演者名には○印を付けてください。共同演者の人数に制限はありません。

キーワード：必ず3語を記入してください。

集録本文：本文は最大8,400文字とします。

図表の使用：図表(写真を含む)を掲載することもできます。必ず番号を付けて下さい。

本文中に挿入する時は、挿入希望箇所に(図1)(表1)と記入してください。

記入がない時は文末とします。

図表の点数：図表(写真を含む)は原則として3点までとします。図表1点につき本文文字数800文字として計算します。

- 記述要領
 - 論文は「はじめに」「研究目的」「研究方法」「結果」「考察」「まとめ」「終わりに」などの順番で記述してください。
 - 引用文献と参考文献を最後にそれぞれ別にして掲載してください。
 - 引用文献は引用順に掲載し、本文中の引用箇所には、右肩に ○○○¹⁾のように上付きで番号を記述してください。
 - 雑 誌：著者名、論文名、雑誌名、巻数、引用頁(初めと終わり)、発行年(西暦)
単行本：著者名、書名、発行者、引用頁(初めと終わり)、発行年(西暦)
- ※注 紙面の都合上参考文献は割愛させていただく場合があります。

■ 原稿の形式について

- 1) 論本文はワード(Microsoft Word)などのワープロソフトで制作したものを入稿してください。
- 2) 図表は本文とは別に、エクセル(Excel)やパワーポイント(PowerPoint)で制作したものを添付してください。
- 3) 入稿の際は、本文及び図表をA4紙にプリントアウトしたものを必ず添付してください。

- 4) 写真や資料は現物を添付されても結構ですが、返却はできません。
- 5) 全てのデータをCD-R、DVDまたはUSBメモリーに収納して送付してください。
またディスクには、発表者名と所属先名を記入してください。

申込先

〒874-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学病院 手術室 学会長 坂本 眞美
TEL：092-801-1011
E-mail：masakamoto@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

日本手術看護学会入会の手続きについて

日本手術看護学会の入会については申し込み期間の遵守をお願いいたします。

1. 入会手続きについて（2月から7月31日まで受付）

1) 現会員の方

- 施設毎にまとめて払込用紙が送付されます。（3月）
- 必要事項を記載し、払い込んでください。

2) 新規会員の方

- 入会申込書の申請書をホームページよりダウンロードし、必要事項をご記入の上、FAXするか、FAXで日本手術看護学会事務局に、所定の入会申込書を下記項目を明記の上、申し込んで下さい。
・連絡先氏名・病院名・郵便番号・病院住所・電話番号・必要枚数（1名1枚）
- 入会申込書兼郵便払込取扱票に記入し同時に郵便局に会費を払い込んでください。

2. 入会金について

日本手術看護学会会費 8,000円
内 訳：本部会費 5,500円 地区会費 2,500円

3. 会員証について

- 会員証が手元に届くまでには1週間程度かかります。
それまでは払込み受領証が会員証の代用になります。

日本手術看護学会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷3-24-8 第1今村ビル4階
TEL (03) 3813-0485 FAX (03) 3813-0539
※電話は月・木曜日の午後のみ

学会についての情報はホームページをご覧ください。

- 日本手術看護学会ホームページ
<http://www.jona.gr.jp/>
- 日本手術看護学会九州地区のホームページ
<http://www.op-kyu.com/>

ご挨拶

第26回日本手術看護学会の九州地区を、大分の「iichiko 総合文化センター」にて開催できますことを、関係者一同大変うれしく思っております。

手術看護学会は手術室で働く看護師にとって、手術看護の専門性を深め、手術看護の質の向上のために、お互いが研鑽を深めることのできる唯一の機会の提供の場であると感じています。今年も多くの皆様の研究発表の応募をいただきました。当日の学会参加をしていただく皆様方へも厚くお礼申し上げます。

近年、九州地区学会で発表された演題について、いくつかの文献提供の依頼が関東や四国地区からも寄せられています。日々の皆様方の研究の実績が、九州地区のみならず広く参考とされていくことは、発表者のみならず学会の開催責任者としてもうれしい限りです。今年もより内容の充実した、話題性のある研究テーマが発表されることを期待しています。

昨年福岡の開催当日は、台風もどきの風雨に見舞われました。特別講演は集団災害の医療管理について企画しました。災害対策はいたるところで日々考えておかねばならない問題です。特に、地震をはじめ大災害は外傷を伴い、緊急手術の受け入れ態勢を常に考えておかねばなりません。皆様は大丈夫でしょうか。今年も7月に石川県を再び大きな地震が襲い、原子力発電所が被災する状況に至りました。温泉の天然ガス爆発の事故もありました。次々に新たな問題が指摘されていますが、まずは落ち着いて緊急対応できる体制を整えていきましょう。

このように手術室は常に緊張した状態に対応することが多く、神経の緊張もピークに達してしまいそうです。

今年の特別講演では、学会に参加をしてくださる皆様方に、人の生き方、人への寄り添い方について、日頃の緊急的な医療現場とは相反する場所、「宅老所」からのメッセージをお届けしたいと思います。

高齢化の社会で急性期病院の患者平均年齢も日々高まっています。時として医療とは何なのか？自問する場面に接しながらの手術現場を経験するのは私だけでしょうか。ほんの少しだけ究極の急性期医療現場を対極の方向から見つめる機会を楽しんで頂きたいと考えています。

最後に、本学会の開催にあたり学会長の**大分大学医学部附属病院手術部師長小栗様**およびスタッフの皆様、大分分会役員の皆様、その他ご協力いただきました関係各部署の皆様方に感謝申し上げます。

日本手術看護学会九州地区
会長 **坂本 眞美**

ご挨拶

第26回日本手術看護学会九州地区を大分で開催できますことを光栄に思っています。当地での学会は、平成9年に別府市ビーコンプラザで第16回九州地区を開催して以来10年になりますが、この間、医療を取り巻く環境は大きく変化し、医療・看護の質の向上を求められる一方、経営改善が求められ、皆様日々ご苦勞をされていることと思います。そのような中、平成18年4月の診療報酬の改定で看護職の職務改善と看護の質改善のため7:1入院基本料が創設され、手厚い看護の実践に結びつくものと喜ばしく思っています。しかし、手術看護師におきましては、いまだ適正配置基準がなく、看護師不足の施設も多く、一歩取り残された感があります。私たち手術看護師は、病院の経営の上でも質の確保の上でも重要な役割を果たしていることに自信とほこりをもつと共にもっと手術看護の重要性をアピールしていかなければならないと思っています。この九州学会での研究発表や意見交換が日頃の看護の確認と質向上につながる事を心から願っています。

さて今回の学会は九州・沖縄各県から27題の応募がありました。術前・術後訪問や看護記録、褥瘡予防、安全・安楽、業務改善等、日頃の看護の取り組みがまとめられ、大変興味深いものとなっています。時間の都合上23題を口演で、4題をポスターセッションと致しました。活発な意見交換が行なわれ、今後の看護に役立つヒントを見つけることができる事を期待しております。

また特別講演では『ほけてもいいよー地域で老いを支えるー』と題しまして、福岡ひかり福祉会第2宅老所「よりあい」所長の村瀬孝生先生に宅老所での老人の姿を通して感じる思いを講演していただく予定です。日々時間に追われる私たちにとって、待つことの大切さ、看護とはなにかを考える機会になり、今後の看護を実践する上で、視点を変えた新たな見方ができ、一人一人を尊重したゆとりある看護に活かされるのではないのでしょうか。

最後に本学会の開催にあたり、多くのご支援、ご協力をいただきました会員ならびに関係者の皆様方に、深く感謝し、お礼を申し上げます。

日本手術看護学会九州地区
第26回学会長 小栗 明美

オリエンテーション

1. 学会運営について

- 1) ネームプレートは資料袋の中に入れてあります。期間中は、ネームプレートをおつけ下さい。つけていない方は再入場できませんのでご注意ください。
- 2) 開演5分前にご着席下さい。
- 3) 発表中はなるべく席をお立ちにならないようにお願いします。
- 4) フロアから発表される場合は、マイクの傍においで下さい。
- 5) 発言、質問される方は、座長の指示に従い、まず、施設名・氏名を述べて簡潔に行なって下さい。
- 6) 交見室は設けておりませんので、会場で十分な意見交換を行なうようお願いいたします。
- 7) ポスターセッションは1階エントランスロビーで展示及び発表をおこないます

2. 会場使用について

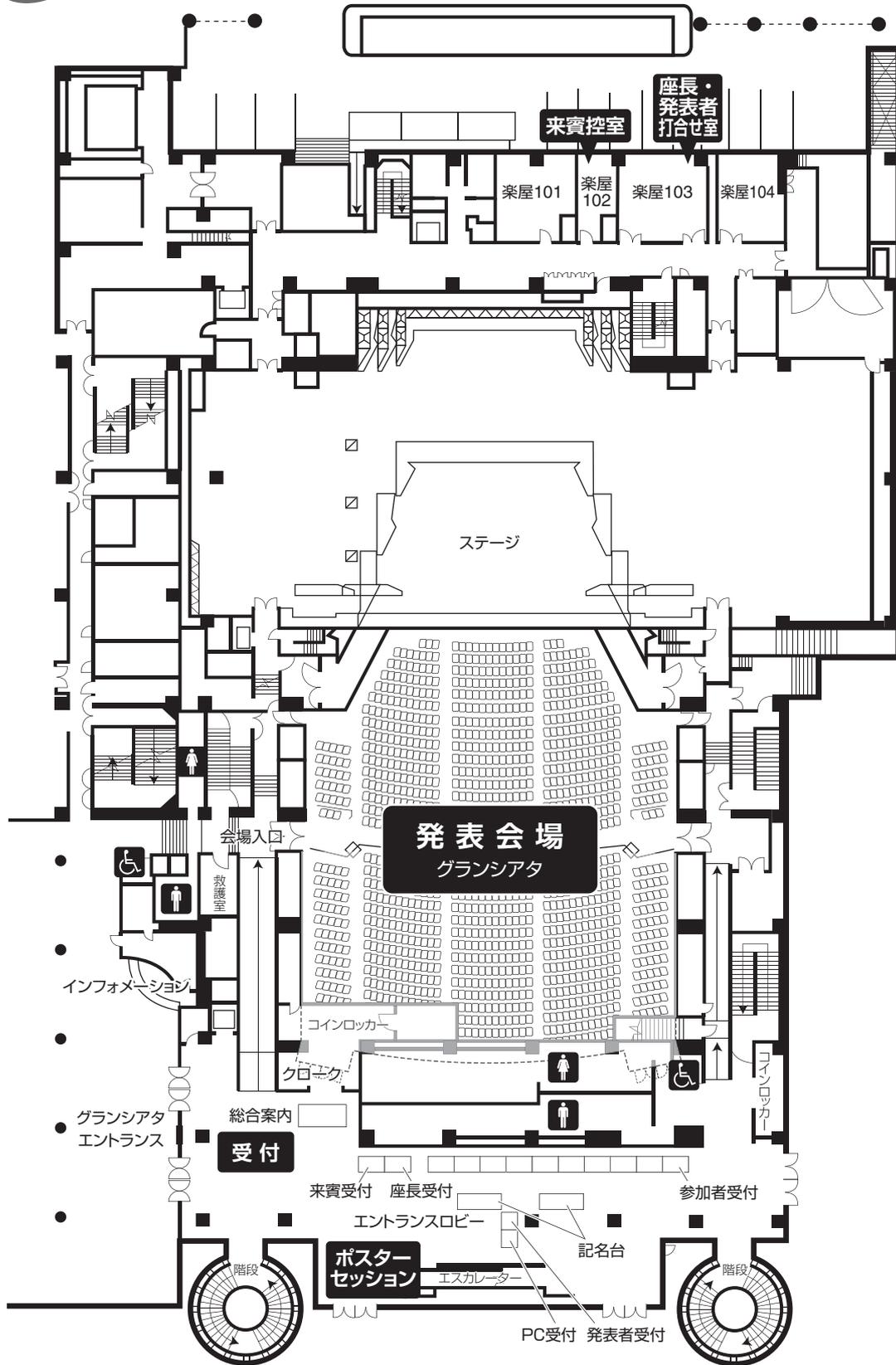
- 1) 会場は1階席のみの使用となっています。2階席・3階席を使用しないでください。
- 2) 会場は前から詰めてご着席下さい。会場の空席に荷物を置いたり、後からこられる方のために座席を確保したりしないで下さい。
- 3) 会館内は禁煙となっております。
- 4) 会場内での飲食は禁止となっておりますので、お弁当の準備はしていません。お食事は近くの飲食店をご利用下さい。エントランスロビーでの飲食は許可されていますが、ゴミは所定の場所に破棄して下さい。
- 5) 総合案内は、ロビー受付で行なっております。「呼び出し」は原則として行なわないこととなっておりますが、緊急の場合は総合案内へお申し出下さい。
- 6) 忘れ物、落し物は総合案内で保管いたします。
- 7) 会場内で(空調など)お気づきの点がございましたら、係員か総合案内までご連絡下さい。

3. その他

- 1) 非常の際は係員の指示に従ってください。
- 2) 4階中会議室1・2 小会議室1で看護用具・医療機器の展示を行なっておりますので、ご覧下さい。
- 3) ご気分が悪くなられた方は、総合案内もしくは係員にご連絡下さい。
- 4) ホール内では、携帯電話等の電源はお切りになるかマナーモードにお願いします。
- 5) その他、ご不明の点は係員か総合案内にお尋ね下さい。



1F



第26回 日本手術看護学会九州地区プログラム

8:30 開 場

9:00 開 会

学会長挨拶	第26回学会長	小栗 明美
会長挨拶	日本手術看護学会九州地区会長	坂本 眞美
来賓祝辞	社団法人大分県看護協会会長	古賀 和枝

[一般演題]

9:10 第Ⅰ群 [体位]

座長：国立病院機構別府医療センター 越田津矢美

- 1 ビーチチェア体位手術患者の観察を行って ～作成したアセスメントツールに基づいて～
谷 真紀 北九州市立医療センター 12
- 2 意識下側臥位手術における安楽への工夫 ～腋窩枕の改良を試みて～
小池有希子 田川市立病院 17
- 3 体位固定のマニュアルの見直し ～載石位固定におけるチェック表作成を試みて～
石井久美子 済生会福岡総合病院 19
- 4 呼吸器外科手術時の胸骨部におけるソフトナースの減圧分散効果の検証
園田久和子 独立行政法人国立病院機構南九州病院 23

9:55 第Ⅱ群 [術前・術後訪問・術前オリエンテーション]

座長：大分赤十字病院 田野 絹子

- 5 小児に対する術前オリエンテーションの検討 ～写真を用いたパンフレットアルバムを作成して～
竹内久美子 中津市立市民病院 26
- 6 手術を受ける小児へのプレパレーションの有効性に関する一考察
谷 佳美 産業医科大学病院 29
- 7 術後訪問がもたらしたスタッフの意識変化とその効果
新原喜代子 肝属郡医師会立病院 32
- 8 術前・術後訪問の活用向上への取り組み ～手術を受ける患者への不安緩和を目指して～
内間 幹 独立行政法人国立病院機構沖縄病院 34
- 9 外来手術業務の拡大への取り組み
前川 久美 国東市民病院 37

10 : 50 第Ⅲ群 [業務改善・教育]

座長：アルメイダ病院 阿部 初美

- 10** シミュレーション導入における新人看護師への教育効果の検討
～直接介助業務に対する心理的变化から～
川上 美香 医療法人社団陽明会小波瀬病院 40
- 11** コスト削減を目指して手術室看護師にできること ～消毒薬・綿球の適量検討～
中上 蘭子 天草都市医師会立天草地域医療センター 43
- 12** 業務改善による効果を検証する ～改善前後の業務量調査結果を比較～
成瀬 幸子 国家公務員共済組合連合会浜の町病院 46
- 13** フルキットシステム導入の評価 ～導入から安定稼働までの過程をマネジメントの視点で評価して～
徳永 春美 大分大学医学部附属病院 49
- 14** フルキットシステム導入による業務改善の評価
竹本 雅子 大分大学医学部附属病院 53

11 : 45 第Ⅳ群 [安全・安楽]

座長：中津市立市民病院 工藤 美代

- 15** 手術期皮膚トラブルの術後経過
高村 智子 大分県立病院 56
- 16** 「弾性ストッキング」に対する患者の理解度の実態調査
巻木 義一 国立病院機構指宿病院 60
- 17** 安全・安楽を考慮した手の手術専用の術衣を作製して
比嘉美菜子 大浜第一病院 63
- 18** 局所麻酔により手術を受ける患者へのリラクゼーション効果 ～頸部加温による一工夫～
上野 悦子 国立病院機構熊本医療センター 66

12 : 30 [総会]

13:40 [特別講演]

座長：大分大学医学部附属病院 小栗 明美

「ぼけてもいいよ」 ～地域で老いを支える～

福岡ひかり福祉会第2宅老所「よりあい」 所長 村瀬 孝生 先生

15:10 第V群 [感染・リスク]

座長：国立病院機構大分医療センター 江藤 義治

- 19 内視鏡手術に使用する器械の洗浄についての実態調査 ～洗浄効果向上を目指したマニュアル作成～
藤本 真紀 独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 69
- 20 水道水による手術時手洗いの検討 ～細菌培養の結果において～
東 啓子 独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院 72
- 21 当院におけるガーゼカウント方法の評価
鈴木 幸恵 大分県厚生連鶴見病院 76
- 22 手術科スタッフのユニホーム着用の見直し ～予防衣の廃止を行って～
福留 貴子 鹿児島厚生連病院 78
- 23 手術看護手順を用いたインシデント再発防止に関する取り組み ～第一報インシデントの実態調査～
濱崎 亜矢 宮崎大学医学部附属病院 80

11:00 [ポスターセッション] ポスター展示 9:00～15:00

座長：大分県立病院 岡村 淑子

- 24 術中記録の改善 ～監査表の作成と監査結果からの一考察～
猪島 真 大牟田市立総合病院 83
- 25 手術室看護記録の効率化と専門性の探求
～術中看護記録の監査を施行し術中看護記録に必要な要素を導く～
益留 晶宏 都城市郡医師会病院 86
- 26 眼科局麻手術のクリニカルパス用紙の記録の徹底
野村 麻紀 久留米大学病院 91
- 27 新人からみた周手術期看護記録
吉良 麻紀 臼杵市医師会立コスモス病院 94

16:20 [次期学会案内] 坂本 眞美 福岡大学病院

[特別講演]

13:40～15:00

座長：大分大学医学部附属病院 小栗 明美

「ぼけてもいいよ」 ～地域で老いを支える～

福岡ひかり福祉会第2宅老所「よりあい」 所長

村瀬 孝生 先生

むらせ たかお

昭和39年10月15日生まれ

東北福祉大学卒

昭和63年 特別養護老人ホーム（飯塚市）生活指導員 8年勤務

平成8年 第2宅老所よりあい（福岡市南区） 所長として現在に至る

福岡ひかり福祉会 理事

特定非営利活動法人 NPO 笑顔理事

〈著書〉

- おしっこの放物線 老いとむきあう居場所づくり 雲母書房
- ぼけてもいいよ 西日本新聞
- おばあちゃんがぼけた 理論社

01

ビーチチェア体位手術患者の観察を行なって ～作成したアセスメントツールに基づいて～

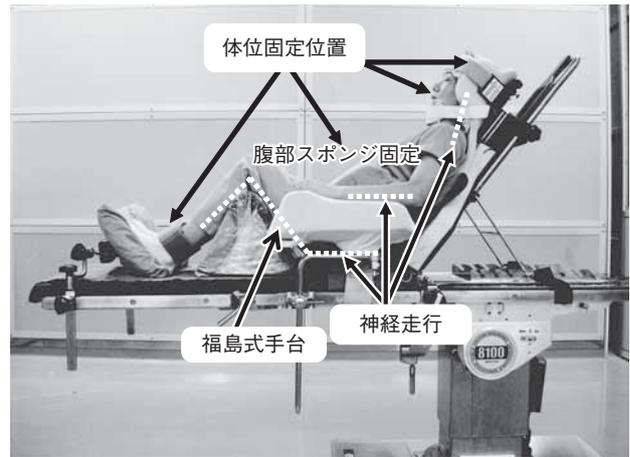
北九州市立医療センター 手術室

○谷 真紀、中野 勝枝、下園 清子、井筒 隆博

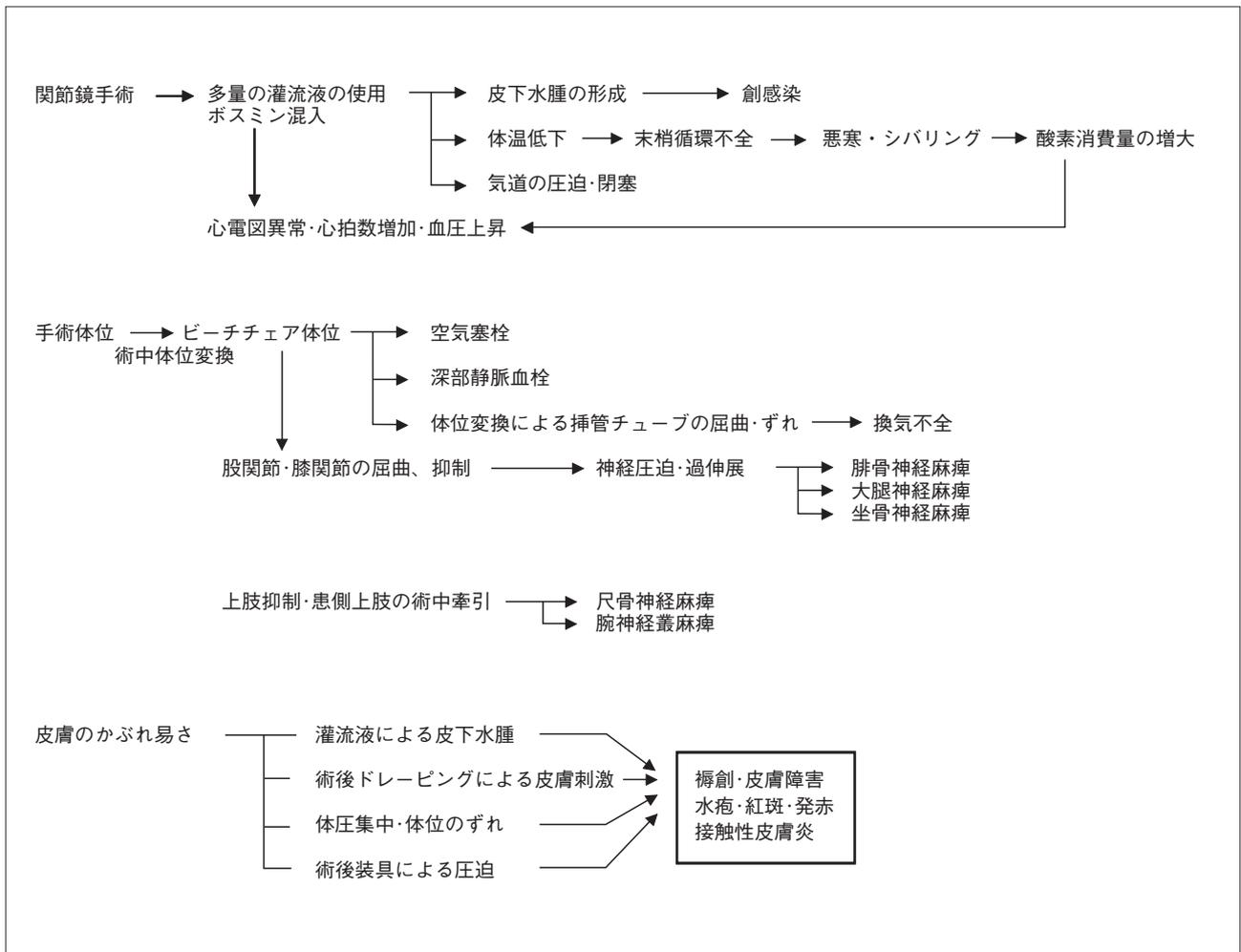
はじめに

近年、内視鏡手術は患者のQOL向上や美容的観点などの社会的ニーズに応じて普及し、当院でも増加の傾向にある。肩関節においても1996年から鏡視下手術が開始され、2005年は年間30症例を超えた。肩関節鏡視下手術は患側を上にした側臥位で行なわれていたが、2004年9月に日本医事新報でビーチチェア体位が発表されると、当院でも導入となった。ビーチチェア体位はオリエンテーションが付きやすく、上腕骨の重みで関節腔内が広がり手術しやすいという手技上の利点があり、現在は主流になっている。しかし安全面では、脳や末梢への血液循環障害、空気塞栓症、体位変換に伴う気道系のトラブル、また体位固定に伴

資料1 ビーチチェア体位の実際



資料2 ビーチチェア体位手術アセスメントツール



う神経障害や褥創、深部静脈血栓症などのリスクがある。

私たちはビーチチェア体位手術において従来の知識や経験を頼りに試行錯誤を繰り返し安全な手術看護に取り組んだが、術後坐骨神経障害と頸部腫脹による上気道障害を実際に経験した。また患者の示す症状や経過が一般的なのか、合併症に関連するのか判断できていなかった。そしてビーチチェア体位手術への看護は現状でいいのだろうかという広く漠然とした疑問が生じ、手術患者を細かく観察し現状を調べようと考えた。

金井¹⁾は観察の目的を「これから行なおうとする看護実践が、限りなく看護そのものに近づくことができるように、相手の状況を正確に認識する必要があるから<観察する>のです。あるいは行なった看護が、相手にどのように届き、どのような変化をもたらしたのかを確かめるため、すなわち看護行為を評価するために<観察する>のです。」と述べている。今回私たちは、観察を通してビーチチェア体位手術に関する一般的な症状や、経過を調べることを目的に症状アセスメントツールを作成し、これに基づいて20例のビーチチェア体位手術患者を共通する項目について観察し症状や経過を調べたので報告する。

用語の定義

ビーチチェア体位手術：ビーチチェア体位(資料1)で行なう肩関節鏡視下手術をいう。

研究方法

1. 研究期間

2006年1月～2006年8月

2. 研究対象

ビーチチェア体位手術を受ける患者20名(男女合計数)

3. 研究方法

1) 文献や資料をもとにビーチチェア体位手術のアセスメントツールを作成する。(資料2)

アセスメントツールをもとに観察項目を設定する。

ビーチチェア体位手術における術中・術後情報記入表(資料3)を作成する

2) 外まわり看護師は設定した観察項目について、術中・術後訪問時の観察データを収集し、術後4日目に研究対象者を訪問する。

カルテによる情報収集後、半構成的面接法により面接を行なう。

3) 得られたビーチチェア体位手術患者の観察データを比較する。

(1) 周手術期の経過や患者に起きている症状や合併症を調べる。

(2) 現在実施している看護により生じている問題を調べる。

倫理上の配慮

研究対象者へより安全な看護を提供することを優先とし、研究の条件を左右する手術用具及び看護ケアの改善も適宜行なった。対象者との面接を始める前に、自分が手術室看護師であること、ビーチチェア体位手術に関する看護研究をしていること、そのうえで対象者との面接が必要であることを説明し協力の同意を得る。記録物の保管・処理は個人情報保護法に基づき対処する。

結 果

問題点	出現した症状と症例数 (20例中)	原因	
予測した 症状や合併症	腫脹	多量の灌流液使用	
	患部だけの腫れ		18例
	頸部までの腫れ		2例
	前胸部までの腫れ		1例
	気道閉塞		0例
	術後4日目まで残る腫れ		0例
	橈骨動脈触知微弱		1例
	冷感		18例
	シバリング		1例
	心電図・血圧の異常、 頻脈		0例
空気塞栓 深部静脈血栓	0例	ビーチチェア体位	
	0例		
	頸部のずれ		4例
	挿管チューブの屈曲		0例
	臀部のずれ		3例
予測できな かった原因に よる症状や合併症	神経麻痺	0例	
	発赤(臀部)	1例	臀部をずらした
	発赤(大腿部外側)	1例	手術用手台のずれ
	疼痛(患側下腹部)	1例	術後の装具の刺激
	表皮剥離(術野)	1例	ドレープの刺激
	発赤、水疱形成 (創ガーゼ固定部)	1例	テープの刺激
	表皮剥離(腋窩部)	1例	術前の皮膚感染

考 察

今回の研究はビーチチェア体位手術患者についての一般的な症状や経過を調べるのが目的だった。得られた観察データの基礎情報として患者の年齢、性別、BMI、既往歴、病名、術式、手術時間、関節灌流液使用量もふまえ、冷感、シバリング、肩峰全体の腫脹、頸部腫脹、患側橈骨動脈触知、頸部のずれ、臀部のずれ、患部の皮膚の変化、患部以外の痛み、これらの症状が同様に生じた患者らのデータを

資料3 ビーチチェア体位手術における術中・術後情報記入表

サイン ()

観察大項目	観察小項目	入室時 月 日	退室時 月 日	術後4日目以降 月 日	備考
循環	血圧	/ mmHg	/ mmHg	/ mmHg (昼検温時)	
	冷感/部位	有 無 /	有 無 /	有 無 /	
	チアノーゼ/部位	有 無 /	有 無 /	有 無 /	
	患肢の橈骨動脈触知	良 微弱 不可	良 微弱 不可	良 微弱 不可	
呼吸	両足背動脈触知/左右差	良 微弱 不可 / R L	良 微弱 不可 / R L	良 微弱 不可 / R L	
	自発呼吸		自発呼吸あり	挿管中	
腫脹	挿管チューブのずれ/屈曲	有 無 /	有 無		
	頸部		有 無	有 無	
	患側肩峰部全体		有 無	有 無	
感覚・知覚	患肢全体 (指先まで)		有 無	有 無	
	関節灌流液全使用量	灌流装置使用 有 無	フルスロッチック(30) 本		
	患肢の手指自動運動/しびれ	有 無 / 有 無	有 無 / 有 無	有 無 / 有 無	術前の腕伸縮グロッチック 有 無
	足趾自動運動/下肢しびれ	有 無 / 有 無	有 無 / 有 無	有 無 / 有 無	基礎疾患 有 無
体温	手術体位のずれ (頸部)	有	無		
	手術体位のずれ (臀部)	有	無		
患部の痛み	体温値/室温	℃ / ℃	℃ / ℃		
	シバリンゲ		有 無		
皮膚	持続皮下注入		有 無	有 無	
	痛み		有 無	有 無	
	皮膚発赤/水疱形成	有 無 / 有 無	有 無 / 有 無	有 無 / 有 無	症状の部位:

比較してみたが明らかな関連性は見いだせなかった。しかしアセスメントツールに基づき患者を観察することで、予測していた症状や経過の実際を把握することができた。そして予測していなかった問題と予測していても問題に至る要因や過程が異なるケースを経験したので述べていく。

予測していた問題では、術後に患部及び周囲の冷感・腫れを18例に認めたと、4日目には全症例で消失していた。腫れは灌流液が皮下組織に漏れ、水腫を形成したもので、肩関節鏡視下手術全般に当てはまる術後合併症である。退室時に橈骨動脈触知が微弱だった症例は1例あり、腫れが末梢血液循環を悪化させたためと考える。患部の腫れは高度になると手の知覚障害やしびれが出現することがあるが、安易に腫れによるものと判断し観察を怠ると神経障害の発見が遅れる可能性があるため、腫れの観察は注意が必要である。また腫れは灌流液使用量が少ない症例でも認められ、使用量に比例しないことがわかった。

また研究以前からはほぼ全例でシバリングが生じていた。これは関節灌流液の半分以上が漏水し、患者は術中濡れたシーツに覆われていたためである。しかし研究期間中、シバリングは1例だった。これは撥水性手術用ドレープが導入され、また温風式加温装置を用いた結果と思われる。

関節灌流液は止血目的でボスミンを3ℓに10mg/1Aの割合で混注し使用している。

ビーチチェア体位手術では1症例平均16Aを使用しており、循環動態の変調を危惧していたが明らかな問題は認めなかった。多量のボスミン使用に伴い、今後も高齢者や心疾患の既往のある患者など合併症をふまえて注意していく必要がある。

坐位手術による問題として空気塞栓症があり、当然予測していた。これは致命的ともなりうる合併症であるが、当院および全国450例(2年間)も含め発症していない。現行の弾性ストッキングとAVインパルスの着用による下肢静脈還流促進への取り組みを継続し合併症の予防に努めていきたい。

体位の問題について述べる。

頸部のずれは4例見られたが、神経過伸展による腕神経叢麻痺も見られていない。挿管チューブの屈曲による気道系トラブルは見られていない。臀部のずれは3例あり、うち2例は身長184cmと146cmだった。これは手術室スタッフ内で体位固定を試行し、安全を確認した条件からは逸脱していたため、身長差に応じた対策が必要である。また全身麻酔患者をビーチチェア体位へ上体を起こす時、重力の影響で体幹は足側へずれるため、挿管チューブ抜去や頸椎損傷の危険性を意識し、体位変換をしていく必要がある。

坐位について、今回は坐骨神経障害を認めなかった。研究を進めるうちに坐骨神経障害の因子では臀部よりもむしろ大腿部後面近位側の圧迫が関係しており、座面のすべり防止に膝窩枕を大腿部後面に強く押し当てている現状には

リスクがあることがわかった。また坐位の安定性をはかるには坐骨結節を前方から支えること(アンカーサポート)や、背面と座面の角度を維持したまま背面にベッドを傾斜し坐圧を分散する方法(ティルト機構)も効果的であると分かったので、安全な体位固定へ検討を進めている。

予測していなかった原因により問題に至ったケースについて述べる。

今回ビーチチェア体位での褥創発生要因を再確認することができた。私たちは持続的圧迫という要因に固執し、他の要因を意識できていなかった。褥創の発生要因には持続的圧迫、摩擦とずれ、湿潤、栄養状態、年齢が挙げられるが、研究期間中は摩擦とずれの影響を考慮できていなかった。そのため背面を十分に観察する項目設定ができていなかった。しかしビーチチェア体位に関して、体位変換時の体のずれに伴う皮膚とシーツの摩擦、皮膚のよれによる血流障害という褥創発生要因は明らかでリスクは高い。臀部発赤を認めた症例も1例あり、体圧を分散させるケアに加え、体位変換後に皮膚のよれやシーツのしわをなくすケアに留意するとともに、術前後に背面を観察し評価していく必要がある。

福島式手台(以下、手台)による患側大腿部の圧迫・発赤を1例認めた。手台の固定は術前に確認しているが、助手は患肢を手術操作に伴い動かす際、手台に接触する。これに伴い手台の軸が回旋したと思われる。手台が接触しやすい大腿中部外側には外側広筋が位置し神経走行はみられず、今回は重篤な障害には至らなかった。現在では、手台の軸が助手の前になるように設置し患者への接触を予防している。また圧迫に関する問題で、集中治療部で覚醒後に患側下腹部の痛みを訴えた症例もあった。術後装具の下端が腸骨隆部を圧迫していたためと思われる。以降圧迫が予測される部位にタオルを挟み対応している。

手術用ドレープの刺激による表皮剥離が1例みられたが、製品の変更により改善された。また術後創部の皮膚障害も1例だったが、これは過去に反対側で同様の手術を受けた患者が研究期間中にも水疱形成を認めた症例であった。この症例では術前に「皮膚が弱い」という情報を得ていたが、テープの種類について患者の個別性を考慮できなくて、スタッフ間の情報伝達も行なえていなかった。個別性を重視しトラブルを防止していきたい。

また術前、腋窩部に皮膚感染を起こしていた症例が1例あった。これは疼痛による可動制限のため腋窩部の接触性皮膚炎から感染症を起こしたものと考えられる。腋窩部は術野に近く、術後二次感染へ波及する可能性もあるため対策を講じる必要があると考える。

結 論

ビーチチェア体位手術患者を作成したアセスメントツールに基づき観察した結果、以下のことがわかった。

1. 術後合併症として脳や末梢への血液循環障害、空気塞栓症、深部静脈血栓症、気道系トラブルは生じていない。
2. 体位固定方法は身長差を考慮したずれ対策について検討する必要がある。
3. 特殊手術体位に伴い摩擦、ずれ、局所圧迫を要因とする褥創のリスクがある。

おわりに

今回の研究は、ビーチチェア体位手術における一般的な症状や経過を裏付けるには至らなかったが、現状での問題を具体化し看護改善が必要な部分を明確にすることができた。しかし研究期間終了後、尺骨神経麻痺を2症例に認めた。この発生要因は私たちが予測していなかったことで、ビーチチェア体位手術には未知の合併症の要因が多く潜んでいることを再認識した。術後情報をもとに事例を検討し看護を評価し、看護改善を進めることが重要である。医療の進歩にともない、今後も様々な術式や手術体位への対応を迫られると予想される。より安全な手術のためにこれからも日々努力していきたい。

引用文献

- 1) 金井一薫: ナイチンゲール看護論・入門, 現代社, P165, 1996

参考文献

- 1) 米田稔: 肩スポーツ障害に対する鏡視下手術, 新時代の整形外科治療, No.8, 1992
- 2) 中根理江: シーティングシステムの取り組み, リハビリテーションの新展開 21世紀への60の提言, P54~56, 日本リハビリテーション病院・施設協会, 2001
- 3) 溝上祐子: これからの創傷管理ー褥創対策から手術創・潰瘍ケアまでの実際, メディカ出版, 2002
- 4) 前田恵美子: 視て観て見て手術室クリニカルパス, 日総研, 2002
- 5) 土田英昭・日高康治: 肩関節鏡手術時の beach chair position, No.4195, 日本医事新報, 2004
- 6) 平野真子他: 腱板断裂に対する肩修復術のクリティカルパス, 整形・災害外科, 47, P461~472, 2004
- 7) 大沢敏久: 腱板断裂に対する肩腱板修復術のクリティカルパス, 整形・災害外科, 47, P473~480, 2004
- 8) 梶西ミチコ: 医療用テープのじょうずな使い方, エキスパートナース, Vol.20, No.5, P108~123, 2004
- 9) 飯田寛和: 整形外科手術と術後ケア 手術を知らば看護が変わる!!, メディカ出版, 2005
- 10) 山中進悟: 整形外科手術の体位, オペナーシング, Vol.21, No.3, P276~281, 2006

平成19年度 日本手術看護学会九州地区役員

会 長
本 部 理 事 坂 本 眞 美 福岡大学病院

副 会 長 高 川 茂 産業医科大学病院
 山 田 和 美 九州大学病院

査 読 委 員 小 川 節 子 久留米大学病院

書 記 泉 谷 智 子 熊本大学医学部附属病院
 福 島 悦 子 鹿児島大学病院

会 計 白 坂 幸 子 宮崎大学医学部附属病院
 識 名 通 子 琉球大学医学部附属病院

会 計 監 査 永 原 直 子 長崎大学医学部・歯学部附属病院
 菖 蒲 庸 子 佐賀大学医学部附属病院

第26回会長 小 栗 明 美 大分大学医学部附属病院

第26回日本手術看護学会九州地区学会 展示参加予定メーカー名簿

No.	参加メーカー名	郵便番号	住 所	電話番号
1	乾商事(株) 福岡営業所	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-23-26	092-482-1381
2	丸石製薬(株)	538-0042	大阪市鶴見区今津中2-4-2	0120-014-561
3	(株)アムコ 福岡支店	812-0008	福岡市博多区東比恵3-13-10	092-441-7641
4	(株)ジェイ.エム.エス 大分営業所	870-0039	大分市中春日町14-7	097-532-2075
5	アルフレッサファーマ(株) 福岡支店	812-0022	福岡市博多区神屋町4-5 KS 神屋ビル2F	092-283-6306
6	(株)インターメドジャパン	812-0013	福岡市博多区博多駅東3-12-11 エコテクノビル3F	092-451-2459
7	(株)秋山製作所 福岡営業所	815-0071	福岡市南区平和1-1-1 インレット平和207号	092-521-7207
8	(株)ホギメディカル 熊本営業所	861-2234	熊本県上益城郡益城町古閑107-12	096-286-1331
9	(財)化学及血清療法研究所	860-8568	熊本市大塚1-6-1	096-345-6500
10	村中医療器(株) 企画開発部	562-0036	大阪市箕面市船場西2-1-1 エリモビル2F	072-726-7050
11	ルーホフ九州	811-1353	福岡市南区柏原2丁目13-14	092-566-9891
12	大衛(株)	812-0001	福岡市博多区大井2丁目10-18	092-622-8415
13	カーディナルヘルス・ジャパン228(株)	810-0802	福岡市博多区中洲中島町2-3 フジランドビル4F	092-281-5686
14	アクションジャパン(株)	658-0046	神戸市東灘区御影本町2-9-16	078-843-5417
15	テルモ株式会社 大分支店	870-0027	大分市末広町2-10-22 損保ジャパン大分ビル4F	097-533-1830
16	瑞穂医科工業(株)	812-0013	福岡市博多区博多駅東3丁目1-1 ノーリツビル福岡5F	092-431-5022
17	ニチパン(株)	810-0004	福岡市中央区渡辺通2-4-8	092-771-4852
18	クラシエ薬品(株)	108-0022	東京都港区海岸3-20-20 カネボウビル6F	03-5446-3343
19	カクイ(株)	813-0034	鹿児島市唐湊4-16-1	099-254-2130
20	キンバリークラーク・ヘルスケア・ インク	220-8115	横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー	045-682-5150
21	泉工医科工業(株)	812-0016	福岡市博多区博多駅南4-17-34	092-474-0381
22	スミスメディカル・ジャパン(株)	812-0016	福岡市博多区博多駅南2-9-11 山善ビル3F	092-473-7687
23	スリーエムヘルスケア(株)	810-0073	福岡市中央区舞鶴1-1-7 モルティ天神ビル7F	092-733-2744
24	日油技研工業(株) 大阪支店	530-0047	大阪市北区西天満5-10-17 西天満パークビル6F	06-6361-5673
25	日本メディカルプロダクツ(株)	812-0013	福岡市博多区博多駅南4丁目2-10 南近代ビル8F	092-477-6505
26	日本エーシーピー(株)	113-0033	東京都文京区本郷2丁目27-3	03-3814-2345
27	東レメディカル(株)	838-0138	福岡県小郡市寺福童30-1	0942-73-3900
28	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) エチコン事業部	812-0011	福岡市博多区博多駅3丁目25-21	092-441-3773
29	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) ASP 事業部	812-0011	福岡市博多区博多駅3丁目25-21	092-441-3773
30	(株)リブドゥコーポレーション 九州営業所	812-0013	福岡市博多区博多駅東3-1-26	092-414-0041
31	日昭産業(株) メディカル事業部 福岡営業所	811-2312	福岡県粕屋郡粕屋町大字戸原字鹿田819-1	092-626-5430
32	川本産業(株)	812-0013	福岡市博多区博多駅東3-1-8 ヒロショービル2F	092-475-1381
33	CSL ベーリング(株)	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-2-1 日本生命博多駅前ビル9F	092-473-8691
34	(株)YDM メディカル事業部	114-0014	東京都北区田端6丁目5番20号	03-3824-5515

第26回 日本手術看護学会九州地区

発行者：小栗 明美

発行日：2007年9月1日

発行所：大分大学医学部附属病院 手術部
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1
TEL：097-586-6062

印刷：Next COMPANY **Secand** 株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市水前寺 4-39-11 ヤマウチビル 1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025